



人が生きていく上で最も大切な心のあり方に 触れている本、だから心に響く

江利川 毅様

人事院元総裁、埼玉県立大学理事長

はじめに私が多くの人に本を贈ったのは、厚生省現・厚生労働省薬務局経済課長の時でした。当時の大きな課題は、独禁法上の問題含みの医薬品流通、その商慣行を是正することでした。そのためには、流通の担い手である医薬品卸業者に発憤していただくしかありません。そこで、私の郷土・埼玉県の偉人である澁澤榮一翁の『論語と算盤』百数十冊を業者の方々にプレゼントして、卸の人たちに声援を送ったのです。

本を贈るのは、どの本を選ぶかによってその人の力量や見識が推し量られてしまうので、正直ちょっと躊躇しました。ところが結構好評で、それ以来、人事異動する後輩に、あるいはお世話になった周りの人に、本を贈るよう

になりました。安岡正篤先生の『活眼活学』、西郷隆盛『南洲翁遺訓』、渡辺和子先生の『置かれた場所で咲きなさい』など、私が愛読する本を贈っています。

現在、私は埼玉県立大学の理事長を務めておりますが、今春退職した教授や県庁に人事異動した職員約四十名に、一緒に仕事をした記念の品として贈ったのが『心に響く小さな5つの物語』でした。また、春の叙勲ではおもいがけず瑞宝大綬章の栄を受け、かつての職場の後輩たちをはじめ、これまでご縁のあった方々からお祝いの会を設けていただいています。そこで、『心に響く小さな5つの物語』I・II巻を併せて三百冊ほど購入し、その人たちへのお礼にお渡ししています。

この本は『致知』でよく取り上げていたので読んだのですが、本当に大きな感動を覚ええました。妻も涙を浮かべながら読んでいました。特に「縁を生かす」のお話は格別で、小学校五年生の時に出会った先生が精神的支柱となっていて、人生を踏み外しそうになっていた少年が逞しく成長するストーリーは、何度読んでも感激します。

本を手にした方からは、イチロー選手の話がよかったなど反響は様々です。退職した教師から、「この歳になっても、これだけ感動することができるとすね」と嬉しそうに言われたのが強く印象に残っています。この本は、人が生きていく上で最も大切な心のあり方に触れているから、読んだ人の心に響くのだと思います。